

令和元年度 プロジェクト研究評価報告

プロジェクト研究課題名	我が国農産物の需要フロンティア開拓と新たなバリューチェーンの構築に関する研究
研究実施期間	平成29年度～令和元年度
プロジェクト研究の概要	我が国の食料消費については、高齢化の進行や人口減少に伴い、量的には飽和の段階を経て、今後大きく減少していく局面を迎える中で、ライフスタイルの変化等を背景とした食の外部化という食料消費行動の変化に対応して、これまで輸入品のシェアが高かった加工・業務用需要について本格的に取り込んでいかなければ、国産農産物等の市場規模は縮小していく懸念があることが明確になった。一方、世界の食市場については、人口増加や所得向上の下で需要が拡大していくと見込まれており、国産農水産物の海外への進出による需要拡大を図る絶好のチャンスとなっている。 このような中、我が国農林水産業の持続的な発展を図るためには、今後の内外の食市場の需要動向を的確に踏まえつつ、生産・加工・流通を通じたバリューチェーンを構築し、各段階における新たな価値の創出を促進するとともに、海外需要も取り込み、国産農水産物の需要の確保を図っていくことが欠かせない状況となっている。 このため、国産農水産物の高付加価値化に的確に対応できる需要拡大方策や高齢社会における食料品の安定供給の方策について明らかにするとともに、多様な海外需要に対応した国産農産物の輸出等への対応を促進する必要がある。 こうした現状を背景として、 (1) 人口減少や高齢化の進展、ライフスタイルの変化等を踏まえ、2015年国勢調査による将来推計人口を用いて、食料消費について摂取エネルギー、供給熱量ベースの食料消費見通しと、品目別の食料支出割合の見通しを推計した。 (2) 農林水産物の高付加価値化による農林漁業者の所得向上を図るための6次産業化の取組について、認定事業者フォローアップ調査のデータ分析や現地調査により、その仕組みや成功条件等を分析した。 ・地域ブランド化による高付加価値化（価格上昇等）の効果について、地理的表示（GI）登録産品全体を対象としたアンケート調査により、取組の効果とその要因や今後の産品振興上の課題を分析した。また、肉用牛のブランドに関して、ブランド化の取組が農業振興に与える効果を、農林業センサスのデータを用いて分析した。 ・GI制度をはじめとしたブランド認証制度に関して、消費者や流通業者に対するアンケート調査の分析により、制度に関する認知や評価、これらに影響を与える要因を明らかにし、制度をより効果的に活用したブラ

	ンド化の推進方向を検討した。 (3) 平成30年度に推計された食料品アクセスマップについて、時系列や地域的な動向についての要因分析を行った。また、将来推計人口も考慮した2025年のアクセス困難人口について検討した。 ・全国市町村アンケートをパネルデータとして評価・分析し、食料品アクセス対策の全国的な状況を整理した。その上で、特徴的な対策を実施している事業者や自治体への現地調査を行い、効率的なビジネスモデル、効果的な支援方法など、対策を行う上での課題、アクセス対策の推進方策やその社会的効果について分析・検討した。 (4) 主要な輸出品目（青果物、茶、水産物）について、産地・加工業者を対象に輸出市場開拓の経緯、近年の輸出の動向や今後の方向性等について現地調査等によって得られた情報を整理・分析するとともに、輸出促進による国内産地・関連産業への影響、今後の輸出促進のための条件について検討・分析をした。
評 価 結 果 ○評価会議名及び開催日 「我が国農産物の需要フロンティア開拓と新たなバリューチェーンの構築に関する研究」 令和2年3月 書面審査 ○評価委員名 佐藤和憲委員 （東京農業大学国際食料情報学部 教授） 下渡敏治委員 （日本大学 名誉教授） 福田晋委員 （九州大学大学院 農学研究院長・農学部長） ○評価基準 ・社会的ニーズへの対応 S:非常に大きな意義がある A:大きな意義がある B:意義がある C:意義が小さい D:意義は見出しがたい ・政策の企画・立案への貢献	（小課題1）食料消費見通しに関する研究 【評価項目ごとの評価】（ ）内は3名の委員の投票数を示す。 ○社会的ニーズへの対応 A:大きな意義がある（3） ○政策の企画・立案への対応 A:大きな貢献が見込める（2） B:貢献が見込める（1） ○学術面から見た研究成果の評価 A:学術的に高く評価できる（1） B:学術的に評価できる（1） C:学術的な評価はやや低い（1） ○研究計画の妥当性 S:非常に良い（1） A:妥当である（2） ○研究資源・実施体制の妥当性 A:妥当である（2） B:概ね妥当である（1） ○研究目標の達成度 A:高く評価できる（3） 【総合評価】（ ）内は3名の委員の投票数を示す。 1:順調に進行しており、問題ない（3） 【評価委員からの主な意見】 ○ 今後の我が国の食料行政のあり方に重要な影響と貢献を果たす研究課題であり、中食の中身の分類を含めて、さらなる研究の深化に期待したい。

S.非常に大きな貢献が見込める A.大きな貢献が見込める B.貢献が見込める C.貢献が小さい D.貢献は見込みがたい ・ 学術面からみた研究成果の評価 S.学術的に非常に高く評価できる A.学術的に高く評価できる B.学術的に評価できる C.学術的な評価はやや低い D.学術的評価は低い ・ 研究計画・研究資源・実施体制の妥当性 S.非常によい A.妥当である B.概ね妥当である C.やや妥当でない D.妥当ではない ・ 研究目標の達成度 S.達成度は非常に高い A.達成度は高い B.概ね達成している C.達成度はやや低い D.達成度は低い ・ 研究成果の実績 S.非常に高く評価できる A.高く評価できる B.評価できる C.評価はやや低い D.評価は低い ・ 総合評価 1. 目標を上回った 2. 目標を達成した	(小課題2) 高付加価値化に関する研究 1 6次産業化(平成29年度評価) 【評価項目毎の評価】()内は3名の委員の投票数を示す。 ○社会的ニーズへの対応 A:大きな意義がある(2) B:意義がある(1) ○政策の企画・立案への対応 A:大きな貢献が見込める(1) B:貢献が見込める(1) C:貢献は小さい(1) ○学術面から見た研究成果の評価 B:学術的に評価できる(1) C:学術的な評価はやや低い(2) ○研究計画の妥当性 A:妥当である(1) B:概ね妥当である(1) C:やや妥当でない(1) ○研究資源・実施体制の妥当性 A:妥当である(1) C:やや妥当でない(2) ○研究目標の達成度 A:達成度は高い(1) B:概ね達成している(1) C:達成度はやや低い(1) 【総合評価】()内は3名の委員の投票数を示す。 2:ほぼ順調であるが、改善の余地がある(3) 【評価委員からの主な意見】 ○ 6次産業化に取り組む経営体の条件については、経営体の特徴、各種取組の有無など、質的なデータも含めた検討が必要である。 ○ 総合化事業計画の認定者を対象としたデータを分析しているが、ここのサンプルの特性(経営形態、出自、6次化への取り組みの差異)が、経営成果等に影響しているため、取り上げている変数のみでは限界がある。 2 地域ブランド 【評価項目毎の評価】()内は3名の委員の投票数を示す。 ○社会的ニーズへの対応
---	---

3. 目標を下回った 4. 目標を大きく下回った	A:大きな意義がある（２） B:意義がある（１） ○政策の企画・立案への貢献 S:非常に大きな貢献が見込める（１） A:大きな貢献が見込める（１） B:貢献が見込める（１） ○学術面からみた研究成果の評価 S:学術的に非常に高く評価できる（１） B:学術的に評価できる（２） ○研究計画・研究資源・実施体制の妥当性 S:非常に良い（１） A:妥当である（１） C:やや妥当でない（１） ○研究目標の達成度 S:達成度は非常に高い（１） B:概ね達成している（２） ○研究成果の実績 S:非常に高く評価できる（１） A:高く評価できる（１） B:評価できる（１） 【総合評価】（ ）内は３名の委員の投票数を示す。 1:目標を上回った（１） 2:目標を達成した（２） 【評価委員からの主な意見】 ○ 学会等でも報告され、議論されているので、学術的に見ても高いレベルの成果が出ている。GIが産地や生産者からどのように認識されているか（取得の狙い）と政策担当者の狙いが果たして合致しているか把握することが、今後重要なポイントになるように思われる。 ○ 所期の目標は達成されている。地理的表示と地域ブランドについてはやや課題を広げすぎた感はあるが、この分野は多岐にわたること、および多様な行政ニーズに応えようとしたものとして評価できる。 ○ GI制度の認知度が低いことを考慮すると、GI制度の拡延には産地や関係者の声を聞いて、制度の内容、制度のあり方を見直すべきとの指摘は的を射たものと言える。更なる研究の深化に期待したい。 （小課題３）食料品アクセスに関する研究 【評価項目毎の評価】（ ）内は３名の委員の投票数を示す。 ○社会的ニーズへの対応
--	--

	S:非常に大きな意義がある（２） A:大きな意義がある（１） ○政策の企画・立案への貢献 S:非常に大きな貢献が見込める（２） A:大きな貢献が見込める（１） ○学術面からみた研究成果の評価 S:学術的に非常に高く評価できる（１） A:学術的に高く評価できる（２） ○研究計画・研究資源・実施体制の妥当性 S:非常に良い（２） A:妥当である（１） ○研究目標の達成度 S:達成度は非常に高い（２） A:達成度は高い（１） ○研究成果の実績 S:非常に高く評価できる（２） A:高く評価できる（１） 【総合評価】（ ）内は３名の委員の投票数を示す。 1:目標を上回った（３） 【評価委員からの主な意見】 ○ 実証研究成果を社会還元するという意味において、今年度の結果を政策面で生かすことが期待される。 ○ 行政施策に寄与する研究成果、また学術研究としての成果を上げただけでなく、この課題の研究推進に関する国内のセンター機能を果たしてきたことも評価できる。 ○ 高齢人口の更なる増加と食料品アクセスに関わる労働力不足が懸念される中で、ラストワンマイルの市場争奪競争を含めて新たな課題が生起する可能性がある。新たな食料品アクセス問題にどう対応すべきか、食料品アクセス問題の集大成となる研究に期待したい。 （小課題４）輸出に関する研究 【評価項目毎の評価】（ ）内は３名の委員の投票数を示す。 ○社会的ニーズへの対応 S:非常に大きな意義がある（１） A:大きな意義がある（２） ○政策の企画・立案への貢献 S:非常に大きな貢献が見込める（１）
--	--

	B:貢献が見込める（１） C:貢献は小さい（１） ○学術面からみた研究成果の評価 S:学術的に非常に高く評価できる（１） B:学術的に評価できる（１） C:学術的に評価できる（１） ○研究計画・研究資源・実施体制の妥当性 S:非常に良い（１） C:やや妥当ではない（２） ○研究目標の達成度 S:達成度は非常に高い（１） B:概ね達成している（１） C:達成度はやや低い（１） ○研究成果の実績 S:非常に高く評価できる（１） A:高く評価できる（１） C:評価はやや低い（１） 【総合評価】（ ）内は３名の委員の投票数を示す。 1:目標を上回った（１） 2:目標を達成した（１） 3:目標を下回った（１） 【評価委員からの主な意見】 ○ 現地のビジネスに関わる担当者のヒアリングにあまりにも依存しすぎていないか、ヒアリングに対する裏付けという点で客観的な実態を反映しているかの検証が必要。 ○ 水産物の定量的な分析については、大学、他の研究機関での研究進捗状況を見定めながら、行政ニーズがあるならば今後でも取り組む必要があるのではないか。 ○ 本研究で現時点での輸出のメリットと課題が解明されたことの意義は大きい。経済連携協定や労働力不足経済、経済変動と輸出との関係を含めて新たな課題に取り組まれることに期待したい。
今 後 の 対 応 方 針	本プロジェクト研究は令和元年度で終了したことから、今後、引き続き継続を要する研究課題については、評価委員から頂いた指摘等をふまえつつ、令和２年度から始まる新たなプロジェクト研究「所得向上等につながる農林水産物・食品の輸出拡大や食品産業の海外展開の促進に関する研究」で対応することとする。 ○ 高付加価値化に関する研究については、地域ブランドの効果や課題について、概括的な把握

	・分析を行ったが、今後、効果をあげている事例の調査等により、詳細な成功要因等の分析や対応策の検討を行う必要がある。また、消費者の認知・評価については、さらに分析を進め、農産物・食品の認証制度の改善への示唆を得る必要がある。 ○ 食料品アクセスに関する研究については、 政策支援の根拠となる各地域におけるアクセス対策の公益性（食品摂取の改善、高齢者の健康改善など）について、今後、研究蓄積が必要である。 ○ 輸出に関する研究については、 農林水産省「輸出取組事例」等を参照して、対象品目を選定し、輸出動機、輸出先の選定、輸出品の規格、輸出のメリット・課題・リスク等に関する現地調査を行い、農林漁業者等の経営上のメリットや農山漁村地域の活性化に結びついた事例の分析を行う必要がある。 水産物については、本研究の成果をもとに、他の主要な輸出品目に対する輸出動向、他国における水産物の消費動向や輸出戦略、国内水産加工業の実態、各国における認証制度運用の実態等について、詳細な分析が必要である。
--	--